



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2019.10

No. 427

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



小笠原のすゝめ

河邊 健（さいたま市）

埼玉県には田畑や森林など様々な環境があります。そしてそこに暮らす多様な野鳥を観察することができます。しかし、埼玉県にはどうしてもない環境があります。それは島です。

しかし、お隣の東京都には様々な環境を持つ島があります。その中でも特に魅力的な島である小笠原諸島について、研究調査の経験から、皆さまにお伝えさせていただきます。

● 小笠原って何？

小笠原諸島は埼玉県から南南東に 1000 km 進んだ先にある太平洋上の孤島です（右地図「地理院地図」より）。聳島列島と父島列島、母島列島、火山列島から構成される島々で、人が住んでいるのは父島と母島の2島のみです。唯一の交通手段はおがさわら丸という船で、竹芝桟橋からおおよそ 24 時間で到着します。

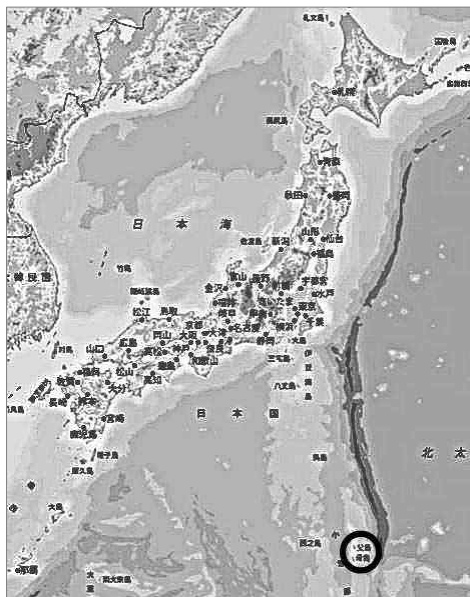
本州や沖縄とは異なり、この島々は誕生してから一度も大陸とつながったことがありません。そのため島にいる生き物は風や波によって運ばれてきたもの、そして鳥のように自力で飛行してきたものに限られます。到達できた生き物は島の環境に合わせて姿形を変化させていきました。姿形を変えた生き物は種として独立していき、この作用が小笠原諸島に多様な固有種を生み出しました。

特に小笠原諸島はカタツムリの進化が著しく、島内の 94% の種が固有種です。多様な固有種と進化の現場を見ることができることを評価され、小笠原諸島は 2011 年にユネスコの世界自然遺産に登録されています。

● 小笠原は固有種の宝庫

小笠原諸島を代表する鳥がメグロです。明るい黄色の体色と目の周りを縁取る黒い模様がなんともチャーミングなこの鳥は、小笠原諸島の母島とその近辺に生息しています。母島に行って驚くことはメグロとの距離感です。国の特別天然記念物に指定されていますが、住宅地のすぐそばでも見ることができます。

かつてはオガサワラマシコやオガサワラカラバトなど固有の鳥類は複数種いましたが、その多くはかつて行われた開発や外来種の影響により絶滅してしまい、現在メグロが唯一



の固有種となりました。

しかし、まだ進化の途上ともいえる固有の亜種は、現在でも多くの種類を見ることができます。ハシナガウグイスやオガサワラヒヨドリ、アカガシラカラスバト、オガサワラカラヒワ、オガサワラノスリが貴重な小笠原諸島の固有亜種です。

さらに小笠原には種分化していない新参者の鳥類もあります。それがイソヒヨドリやトラツグミです。彼らは今後、島の環境に特化して進化する可能性もあります。

小笠原諸島の魅力は鳥だけではなく。

中でもぜひ見ていただきたいものがシマウツボ、オガサワラオカモノアラガイ、オガサワラオオアリです。シマウツボは小笠原固有の植物です。自分では光合成せずに他の植物の根っこに寄生して栄養を得るちゃっかり者



シマウツボ



オガサワラオカモノアラガイ



オガサワラオオアリ

です。黄色い可憐な花をつけます。

オガサワラオカモノアラガイは母島の霧が多い地域で見られる陸生の貝類です。貝殻を小さく進化させた姿は、さながら葛餅のようです。

オガサワラオオアリは小笠原諸島に広く分布する固有のアリです。全身が金色で宝石のように美しいのが特徴です。

小笠原の魅力は島だけではありません。その周りに広がる海もまた生物の宝庫です。6年前に深海ブームの火付け役となったダイオウイカの生きた姿の撮影はなんと小笠原の近海で行われていました。ボニンブルーと呼ばれる深い青色の海には、ダイオウイカなどの深海生物やサンゴ礁の魚たち、イルカやクジラなどの海獣等が豊富に生息しています。

そしてこれらの海の豊富な資源を狙ってたくさん海鳥も小笠原で見ることができます。オガサワラヒメミズナギドリやクロウミツバメなど現在小笠原のみで繁殖を行っている鳥もいます。

行き来に使うおがさわら丸ではオナガミズナギドリやアナドリ、シロハラミズナギドリ、カツオドリを最も頻繁に見ることができます。

また運が良ければ、アカアシカツオドリやクビワオオシロハラミズナギドリなど、より南方の海鳥もいるかもしれません。豊富な海鳥は小笠原から竹芝桟橋間の長時間の船旅を素敵なものに変えてくれます。

● 小笠原へ行ってみよう

行くのも楽しい、着いても楽しい。まさに鳥見天国の小笠原諸島ですが、時間がかかるのがネックです。通常、小笠原諸島は行って帰ってくるだけで6日間かかります。

しかし、7月～8月にかけておがさわら丸の行き帰りが3日間になる期間があります。

そこを狙います。当然人気のある期間なので、予約はお早めをお願いします。

小笠原諸島に行く際は、必ず母島によることもお勧めします。父島は観光の拠点で非常に素晴らしい場所で、小笠原ならではの生き物を見ることもできるのですが、外来種の影響で、あまり豊かとは言えない状況です。母島は今でもまだ多くの固有種の生息地となっており、本来の姿に近い小笠原の自然を見ることができます。そして何よりも、メグロが見られるのは母島だけなのです。

おがさわら丸のイベントには、普段は行けない島々や航路を設定することがあります。その代表格が硫黄島クルーズと西ノ島クルーズです。

硫黄島クルーズは初夏に行われ、通常父島に停泊しているおがさわら丸を利用して火山列島の北硫黄島・硫黄島・南硫黄島を巡ります。島に上陸することはできないのですが、普段のおがさわら丸ではめったに見ることのできないシロアジサシやシラオネツタイチョウなど南国の雰囲気満載の海鳥を見ることができます。

西ノ島クルーズは秋に行われ、噴火で話題になった西ノ島へと向かいます。できたてほやほやの火山島を見ることができるほか、小笠原諸島の他の島々の付近では中々見られないアオツラカツオドリにも出会える可能性があります。このようなたまらないイベントがあるのも小笠原諸島の魅力の一つです。

自分はこれまで3回小笠原諸島に行きましたが、行くたびに新たな発見と素晴らしい出会いがありました。皆さんに少しでも小笠原諸島に興味を持っていただけたら、とてもうれしく思います。

原市の森、原市沼川、下の池調節池1の野鳥

千葉 秀男（上尾市）

私の野鳥観察地の一つである「原市の森」は、埼玉県立上尾鷹の台高等学校の西側に位置するところ。さいたま緑のトラスト保全12号地になっています。

また、上尾鷹の台高等学校の東側には、「原市沼川」が流れています。

「原市の森」の南側には、県道3号線を跨ぎ、「原市沼川」の西側に沿って「下の池 調節池1」があります。その3ヶ所が野鳥観察コースです（右ページ上）。特別な種や数は、決して多くはありませんが、身近な野鳥が観察できます（下表参照）。

●「原市の森」は、コナラ、クヌギ、アオハダ等の落葉樹が多い林です。また、落ち葉等を踏み固めた通路があり、春は芽吹き、真夏は木の葉の陰で日向との気温差を感じます。

トラスト保全地に指定される以前の林の中は、下草があり、見通しの悪い所でした。現在は保全活動を行っている人たちによって、定期的に除草作業等を行っており、見通しが良くなっています。

しかしながら、野鳥にとって良い環境とはどのような林なのか、と考えてみたくなる部分

もあります。

コジュケイ、キジバト、ツミ、コゲラ、モズ、オナガ、シジュウカラ、ツグミ等が観察できます。

●「原市沼川」の川幅は広くはなく、対岸の水際にいるクイナやあのコバルトブルーのカワセミも観察ができます。

数年前、この川でカルガモが、5～7cm程の魚（フナと思う）を丸呑みしていたのを見ました。まるで、カワウかと見間違えう程の呑み込み方でした。何度もカルガモを観察してき

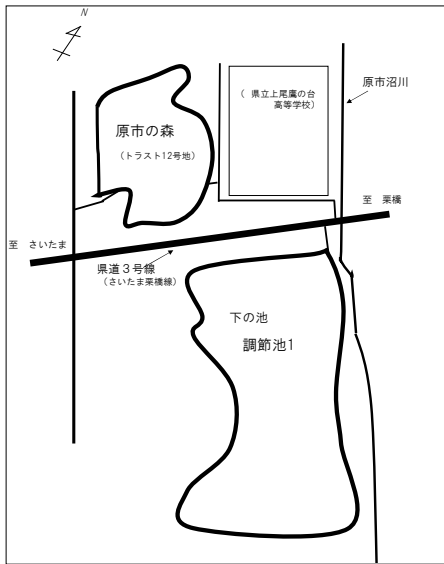
No.	野鳥種	漢字表記	No.	野鳥種	漢字表記
1	コジュケイ	小綬鷄	31	オナガ	尾長
2	コハクチョウ	小白鳥	32	ハシボソガラス	嘴細鳥
3	オオハクチョウ	大白鳥	33	ハシブトガラス	嘴太鳥
4	オカヨシガモ	丘葦鴨	34	ヤマガラ	山雀
5	ヒドリガモ	緋鳥鴨	35	シジュウカラ	四雀
6	カルガモ	輕鴨	36	ヒバリ	雲雀
7	ハシビロガモ	嘴広鴨	37	ショウドウツバメ	小洞燕
8	コガモ	小鴨	38	ツバメ	燕
9	カイツブリ	鶺鴒	39	ヒヨドリ	鶉
10	キジバト	雉鳩	40	ウグイス	鶯
11	カワウ	河鷄	41	エナガ	柄長
12	ゴイサギ	五位鷺	42	メジロ	目白（續眼児）
13	アオサギ	蒼鷺	43	ムクドリ	椋鳥
14	ダイサギ	大鷺	44	トラツグミ	虎鷄
15	チュウサギ	中鷺	45	シロハラ	白腹
16	コサギ	小鷺	46	ツグミ	鶉
17	クイナ	秧鷄	47	ジョウビタキ	常鷄（尉鷄）
18	バン	鶺鴒	48	スズメ	雀
19	オオバン	大鶺鴒	49	ハクセキレイ	白鶺鴒
20	イカルチドリ	桑鶉千鳥	50	セグロセキレイ	背黒鶺鴒
21	タシギ	田鶺鴒	51	カワラヒワ	河原鶺鴒
22	イソシギ	磯鶺鴒	52	ベニマシコ	紅猿子
23	チュウヒ	沢鶺鴒	53	シメ	此女（鶺鴒）
24	ツミ	雀鷹	54	ホオジロ	頬白
25	ハイタカ	鷲（灰鷹）	55	カシラダカ	頭高
26	オオタカ	大鷹（蒼鷹）	56	アオジ	青鶺鴒（鶺鴒）
27	カワセミ	翡翠	57	オオジュリン	大寿林
28	コゲラ	小啄木鳥			
29	チョウゲンボウ	長元坊			
30	モズ	百舌（百舌鳥）			

※ 2000年3月～2018年3月までの記録

※ 漢字表記は山溪名前図鑑「野鳥の名前」を参考



野鳥情報



ましたが、この状況は初めてです。

カルガモ、コガモ、カワウ、クイナ、カワセミ等が観察できます。

●「調節池1」は、周りの土手が整備されており、足に優しい舗装がされていて一周することができます。

普段の調節池はあまり水がなく、湿地でヨシやガマが茂っており、何ヶ所かの水溜りにカモやサギがいます。調節池ができた何年間かは、ヤナギ等の立ち木が数本あり、野鳥が一休みできましたが、現在は木が伐採され、ヨシやガマも短く刈られていて、カモやサギが身を隠しづらくなりました。

まあ、元来調節池なのだから仕方のないことではありますが、「真ん中辺くらいには少し残して!」と思っています。

土手の近くを短く刈り取っているので、タシギが良く観察できます。オオタカが、カルガモを捕らえて一心不乱にむさぼり続け、消化器官がどんどん膨れていく様子をじっくりと観察できたこともあります。カラスが寄って来なかったのは、なぜなのか不思議です。ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、タシギ等も観察できます。

「原市の森」が今の雑木林を保持し、「原市沼川」がコンクリートで護岸されないよう祈る今日です。

春日部市金崎 庄和総合公園 ◇4月14日、池の島の樹木に、アオサギ4番いの巣を確認。5月13日、各巣で2～3羽の雛が育っていた。当地でアオサギが繁殖したのは初記録である(山部直喜)。

吉川市高久 ◇5月29日午後5時頃、同地でヒクイナの声を30分以上楽しんだ。6月23日午後2時30分頃、工事現場で、ハヤブサが盛土に急降下。どうやらコアジサシ狙い。狩りは失敗し北東の方角に飛んで行った。その際、コアジサシ30～40を数えた(山部直喜)。

さいたま市緑区大門 ◇6月14日、事務所の外からチョウゲンボウらしき声。窓から外を見るとチョウゲンボウ1がツバメ1に追い回されていた。近くに巣があったのだろう(藤原寛治)。

北本市 北本自然観察公園 ◇6月16日午前11時5分、ホトトギスの声、初音(小貫正徳・とみ子)。◇7月26日、今季、バンの雛が9羽巣立ったとのこと。2羽の親鳥から離れて、眼下の湿地を3羽の雛が歩きながら採餌していた。他にカイツブリ成鳥3、カルガモ5、カワセミ1、イワツバメ1、ツバメ2、ムクドリ20±、コジュケイ1、ウグイス1、ヒヨドリ1、スズメ、シジュウカラ、メジロ、キジバト、ハシブトガラスなど(長嶋宏之)。

吉見町 吉見総合運動公園 ◇6月20日、ヒバリ多数。足元から飛び立ち、繁殖しているようだ。オオヨシキリがヨシ原で賑やかに囀っていた。繁殖していると思われる。セッカが上空で、ホオジロが梢で囀っていた。カワラヒワとウグイスの囀りも聞こえた。他にノスリ、トビ、ダイサギ、カワウ、アオサギ、コチドリ、シジュウカラ、ツバメなど(長嶋宏之)。

蓮田市 西城沼公園周辺 ◇6月23日、シジュウカラの数が増えた18+。スズメの数も増えた50+。共に巣立ち雛が混じっている

ようだ。カワラヒワが電線で囀っていた。他にメジロ、ハクセキレイ、キジバトなど。6月26日、ムクドリ10±とハシボソガラス2がヤマモモの実を啄んでいた。シジュウカラとメジロとエナガの混群がケヤキの枝を渡って行った。後からコゲラ2が、鳴きながら枝をつついて移動して行った。水面を2羽のカワセミが真っ直ぐに飛んだ。電信柱に巣を作ったハシボソガラスは巣を放棄したようだ。他にヒヨドリ、キジバト、カワラヒワ、ホオジロなど。ヨシ原のオオヨシキリが7月5日以降鳴かなくなった。ムクドリの数が増えた。7月2日6羽、7月5日36羽、7月15日50羽。7月18日21羽。群れが分散したようだ。7月23日53羽、7月29日55羽。ヒマワリ畑にカワラヒワが目立つ。7月15日2羽、7月17日10羽、7月23日2羽、7月29日2羽。ヒヨドリが少なくなった。7月2日3羽、7月5日1羽、7月23日1羽。7月15日コジュケイが囀った。まだ健在だ！ 7月15日、コムクドリらしい個体が1羽、ムクドリの群れに混じっていた。ツバメ5、スズメ15±、シジュウカラ3~5、オナガ1~10、キジバト5±、ハシボソガラス5~10、ハシブトガラス5~10、部分白化のハシボソガラス1（長嶋宏之）。

桶川市舎人新田 ◇6月26日午前5時45分、チョウゲンボウ2、幼鳥？ 電線に5m程離れてとまる。1羽が近くの新幹線高架下へ。残ったところへキジバトやムクドリが近づきとまる。7月10日午前5時30分、ゴイサギ成鳥1、幼鳥3。随分久しぶりに戻る。他にアオサギ1、カルガモ5。8月24日午前6時30分、調整池でゴイサギ80疇入り、やっと例年の数に戻る（小貫正徳）。

さいたま市見沼区膝子 ◇6月26日、車で走行中、カルガモが鳴くばかりで逃げないので、脇の農業用水路を見たところ、成鳥の半分くらいの大きさのヒナ3羽が落ちていて上がれない様子。棒を2本斜めに立てかけて去る。1時間後、いなかったので脱出できたか？（鈴木紀雄）。

さいたま市大宮区大宮公園 (53397500) ◇

6月26日、ササゴイ成鳥1。大宮公園に行ったら顔見知りの人と会って、池に前日から来ていると聞いて急行。池の南側を歩いていると岸から対岸に向かって飛んで、木にとまった。まさしくササゴイであった。野鳥データベースに登録されたデータを調べたが、ここでの記録はなかった。もしかしたら大宮公園初記録かも知れない。（森本國夫）

吉川市中曽根 ◇6月26日午前10時頃、吉川美南駅東側の休耕田で、タマシギの「コオー、コオー、コオー」の声が2方向から聞こえてきた。聞き入っていたら、ヨシゴイ♂1がヨシ原の上をかすめて飛んだ。同日午後4時45分頃、午前中より遠い2方向からタマシギの鳴き声。ヒクイナ1の声も聞こえた（山部直喜）。

吉川市美南 美南公園 ◇7月2日午後4時頃、ヨシゴイ♂1が池の西岸から飛びあがり東岸のヨシ原の中に降りた（山部直喜）。

蓮田市 山ノ神沼 ◇7月19日、ここはいつ来てもゴイサギがいる。今回も成鳥2、幼鳥3が茂みで翼を休めていた。他にカルガモ20、ダイサギ1、コサギ2、ムクドリ14、ハクセキレイ2、セッカ1、モズ成鳥1、ヒヨドリ1、ツバメ、キジバト、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、オナガなど（長嶋宏之）。

蓮田市関戸 N36.0090 E139.6362 ◇7月11日、空き地でヒバリの巣立ち雛が親に餌をねだっていた（関口明宏）。



表紙の写真

スズメ目ヒタキ科ジョウビタキ属ジョウビタキ

緋色のはかまの淑女を昨年の秋初めて撮影したのは10月31日でした。例年10月末頃が多いようです。 海老原美夫(さいたま市)



行事案内



ツツドリ (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月6日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR 高崎線 北本駅西口から、「北里大学メディカルセンター行き」バス 8:38 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大畑、岡安、近藤、柴田、千葉、飛田、永野、村上(政)、吉原(早)

見どころ：秋の渡りで公園に立ち寄る珍客を探します。昨年は、エゾビタキ、コサメビタキ、サンバソしてシマアジと大賑わいでした。いつものカワセミも待っています。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：10月6日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

担当：大井、伊藤、須崎、高崎、手塚、野口、藤田、若林

見どころ：一周約 3 km の芝川第一調節池を歩きます。10 月は秋の渡り鳥に注目。冬を越すため東南アジアへ向かうノビタキやツツドリ、一方、ロシアのツンドラなどで子育てを終えたカモ類が渡って来ています。30~40 羽のヒヨドリの群れにも会えるかもしれません。

ご注意：①コースの途中でトイレはありません。②強風等天候によってはコースを変更します。

埼玉 Young 探鳥会 川越市・伊佐沼

期日：10月6日(日)

集合：【電車の方】午前9時、JR 川越駅東口。

【車の方】午前9時 30 分、伊佐沼西側駐車場。

交通：川越駅東口バスロータリー⑧番バス乗り場から、**本 52**川越グリーンパーク行き 9:10 発で「伊佐沼冒険の森」下車。

担当：廣田、石塚(敬)、大林、河邊、島崎、高崎

みどころ：この時期の伊佐沼は、渡ってきたばかりのカモ類、シギ・チドリ類など、何が見られるかはその日にならないとわかりません。ヤングな皆様、初心者の皆様、ご家族連れ大歓迎です！

ご注意：昼食をはさんで 13 時半頃解散です。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月13日(日)

集合：午前9時40分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷 9:21 発、または寄居 8:59 発に乗車。

担当：千島、新井、鶴飼、大畑、倉崎、田島、飛田、中川、村上(政)、茂木

見どころ：野鳥の森まで歩き、ツツドリ、ノビタキ等渡り途中の鳥を探します。ハヤブサ、ノスリも飛ぶでしょう。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月19日（土）

集合：午前8時10分、東武日光線 柳生駅前。

または午前8時30分、中央エントランス
駐車場。

交通：東武線 新越谷 7:19→春日部 7:36→南
栗橋 7:53 着で新栃木行き 7:54 に乗り換え
柳生 8:07 着。またはJR 宇都宮線 大宮 7:03
→栗橋 7:38 着、東武線新栃木行き 7:57 発
に乗り換え柳生 8:07 着。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。

担当：佐野、入山、植平、佐藤(宏)、進士、
野口

見どころ：遊水地へ戻ってきた冬鳥を探しま
す。カモや猛禽に期待です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月19日（土）午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月20日（日）

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

交通：JR 北浦和駅東口、正面信号を左側から
渡り、50m先左手バスターミナルから東武
バス「さいたま市立病院」行き 8:23 発で終
点下車。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、青木、浅見(健)、浅見(徹)、楠
見、小菅、小林(み)、畠山

見どころ：秋の渡りも終盤。10月はノビタキ
を求めて芝川沿いを歩く「ノビタキ探鳥会」
です。近年、観察回数は減ってきています
が、例え会えなくとも、カケスやジョウビ
タキが待っていてくれるでしょう。



ノビタキ（編集部）

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月26日（土）

集合：午前8時30分、県立さきたま史跡の博
物館前レストハウス。

交通：JR 行田駅東口から、行田市内循環バス・
観光拠点巡回コース左回り 7:55 発で「埼
玉古墳公園前」下車、徒歩約2分。

担当：相原(修)、相原(友)、岡安、竹山、村
上(政)、茂木

見どころ：秋の訪れが感じられる季節。やっ
て来たばかりのジョウビタキや川沿いでの
クイナの仲間たちにも期待します。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月26日（土）～27日（日）

詳細は、9月号をご覧ください。

宮城県・蕪栗沼探鳥会（要予約）

期日：11月9日（土）～10日（日）

集合：9日午前7時、東武野田線 岩槻駅東口。

交通：集合地から往復貸切バス（27人乗り中
型）を使用。

解散：集合場所にて10日午後6時頃の予定。

費用：28,000円（1泊3食宿泊費、入湯料、
貸切バス代、保険料など）。過不足の場合、
当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：23名（野鳥の会会員限定、応募多数の
場合は先着順、埼玉会員優先）。最少催行人
数16名。

申込み：往復はがきに、住所・氏名（ふりが
な）・生年月日・年齢（保険加入に必要）・
性別・電話番号・会員番号を明記して、長
野誠治（XXXXXXXXXX
XXXXXXXXXX）まで。10月1日以降の消印から
有効受付とします。10/1 から郵便料金が変
わります（通常はがきは63円に）。

担当：長野、青木、入山、佐野

見どころ：4年ぶりの蕪栗沼での鳥見です。
数万羽のガンのねぐら入り・ねぐら立ちは、
初めての方はもちろん、何回見ても迫力満
点で感動は間違いなし！ ガン・カモ類、
猛禽類、冬の小鳥類を観察します。

宿泊：男女別の相部屋です。個室の用意はで
きません。温泉（大浴場）が宿に隣接。



行事報告

4月20日(土) 東京都 葛西臨海公園

参加: 28(会員26)名 天気: 快晴

ヒドリガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ウミアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ クロツラヘラサギ オオバン ホウロクシギ キアシシギ イソシギ ユリカモメ ウミネコ セグロカモメ トビ コゲラ チョウゲンボウ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ セッカ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ アオジ (42種) (番外: ドバト) 夏鳥目当てで芦ヶ池の方から歩いたが、シロハラ、アカハラなどの冬鳥が残っていた。西なぎさではカンムリカイツブリ、ウミアイサ、スズガモと、はるか遠くのクロツラヘラサギ。野鳥園へ向かう途中でさっきより近くでホウロクシギが見られた。淡水池で淡水ガモたちを観察して終わった。昼食後にヒクイナ登場、残っていた人たちはラッキーだった。(菱沼一充)

4月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 7名

相原修一、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、藤掛保司、三ツ矢正安

4月21日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 35(会員28)名 天気: 快晴

キジ カルガモ キジバト アオサギ チュウサギ コチドリ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ エナガ センダイムシクイ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ アオジ (26種) 開始早々、雄キジがフェンスに止まり、近くの地面ではシロハラが出現。新緑の雑木林では上の方からシメの声がそこかしこから聞こえたが姿はよく見えず。夏鳥はチュウサギとセン

ダイムシクイの2種だけ。後者は小さくてよく動き回るので姿は捉えにくかったが、よく鳴いてくれたお陰で「チョ、チョ、ジー」は記憶に残ったのではないだろうか。(石川敏男)

4月21日(日) さいたま市 三室地区

参加: 36(会員26)名 天気: 晴時々曇

キジ カルガモ コガモ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ ヒメアマツバメ コチドリ オオタカ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ オオヨシキリ ムクドリ アカハラ ツグミ スズメ カワラヒワ シメ ホオジロ (28種) 博物館南の林からアカハラの明るい囀り。芝川の土手に上ると、渡ってきたばかりのオオヨシキリが、まだ遠慮がちに「行々子」。ホオジロとヒバリはここここで縄張り宣言? それとも恋の歌? 田圃にはまだ水が引かれず、ダメかなと思ったら、何と畑にコチドリ2羽。三室の春を満喫。(浅見 徹)

4月24日(水) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加: 53(会員45)名 天気: 曇時々雨

キジ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン コチドリ タシギ クサシギ イソシギ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ セッカ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (37種) (番外: ドバト、ガビチョウ) コガモ、タシギ、ツグミなどの冬鳥がまだ見られた一方、夏鳥はコチドリとツバメだけであった。期待していたヒタキ類の姿もなく、「キミだけは裏切らないよね」と思っていたオオヨシキリにも裏切られた。リーダーの涙雨が強まってきたため、少し早めに解散。なぎさめるかのように、オオタカが鳴いてくれた。(小林みどり)

4月26日(金) 長野県 中軽井沢 Ladies'

参加: 7(会員7)名 天気: 雨

キジ カルガモ キジバト アオサギ コゲラ アカゲラ アオゲラ モズ カケス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ

ヒヨドリ ウグイス ヤブサメ エナガ センダイムシクイ メジロ ゴジュウカラ ミソサザイ ムクドリ カワガラス コルリ コサメビタキ キビタキ オオルリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ (34種) 雨が確実なためリーダーに中止の連絡をした。現地には6名の方が来られた。中止を伝えるつもりであったが、せっかくなので長倉神社までは行こうとスタート。出発早々激しい雷雨に見舞われ急ぎ神社へ。雨宿りをしていると、イカルの群れ、アカゲラ、アオゲラ、キビタキが出現。雷が止み小降りになったので再び出発。途中降ったり止んだりのなか鳥を見ながら進み、到着間近に強くなったので早足で進み、ハルニレテラスに到達。昼食後雨が上がり、野鳥の森では、コサメビタキ、センダイムシクイ、ミソサザイ、オオルリが良く見られた。(吉原早苗)

4月27日(土) さいたま市 大宮第二公園
雨のため中止。(浅見 徹)

4月28日(日) 北本市 石戸宿
参加: 62(会員58)名 天気: 快晴

キジ カルガモ ハシビロガモ コガモ カイツブリ キジバト アオサギ ダイサギ バン アマツバメ ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ カケス ハシボソガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ センダイムシクイ メジロ オオヨシキリ ツグミ キビタキ スズメ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (30種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 2班に分けて実施。私のグループは逆廻り。逆コースのため、時間配分に苦慮した。また、朝寒かったせいか轉りが少ない。予定ではシャワーの様な轉りなのだけれど。それでも10時半頃には、暖かくなったためか轉りが盛んになった。しかし既に葉が茂っているため姿を探すのが難しい。それでも運の良い人はキビタキ、センダイムシクイが見られた。でも、轉りを楽しめるのはこの時季のみ。充分楽しんで頂けたらうか。(吉原俊雄)

4月29日(月、祝) シギ・チドリ類県内調査
ボランティア: 18名

浅見徹、石井智(担当)、今村富士子、海老原教子、海老原美夫、小貫正徳、小島實、佐久間博文、志

村佐治、新倉逞斗、新倉康幸、藤田敏恵、村越百合子、山下紀、山下康子、湯本貴光、吉原早苗、吉原俊雄

5月3日(金、祝) 幸手市 宇和田公園
参加: 53(会員45)名 天気: 晴

キジ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ムナグロ コチドリ トビ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ ハヤブサ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ アオジ (27種) (番外: ドバト) 令和初の探鳥会は好天のなかスタート。間もなくチョウゲンボウが出迎えてくれた。期待のシラコバトは姿を見せてくれなかったが、田んぼではコチドリとムナグロが待っていてくれた。この時季には珍しいアオジも見られた。(佐野和宏)

5月6日(月、祝) 千葉県習志野市 谷津干潟
参加: 44(会員42)名 天気: 晴

オカヨシガモ ヒドリガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ カイツブリ ハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ コチドリ メダイチドリ セイタカシギ チュウシャクシギ キアシシギ コゲラ ハヤブサ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ アカハラ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ (33種) (番外: ドバト) 午前中は寂しかったが、終了後にシギ・チドリ類がやってきた。しかし、猛禽類の出現で、また三番瀬方面に行ってしまった。(杉本秀樹)

5月10~12日(金~日) 東京都 三宅島
参加: 23(会員23)名 天気: 晴一時曇

コジュケイ カラスバト キジバト クロアシアホウドリ オオミズナギドリ ハイロミズナギドリ ハシボソミズナギドリ ヒメウ ウミウゴイサギ アオサギ ダイサギ オオバン ツツドリ アマツバメ ヒメアマツバメ キアシシギ ウミネコ アジサシ トウゾクカモメ ミサゴ トビ アオバズク コゲラ ハヤブサ モズ ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス イイジマムシクイ メジロ

ウチヤマセンニュウ オオヨシキリ ミソサザイ
アカッコ コマドリ イソヒヨドリ スズメ
カワラヒワ ホオジロ (43種) 今年はどうとう
傘の出番なし。爽やかな海風と、じりじりと肌を
焼く太陽を浴びて鳥見を楽しんだ。順光で見たカ
ラスバトの何と美しかったことか。伊豆岬のウチ
ヤマセンニュウは何時になくサービス満点で、じ
っくりと観察。アカッコもイイジマムシクイも
沢山いて、声と姿を楽しめた。帰りの船では、最
後の最後にクロアシアホウドリが船の近くを飛び、
大歓声が上がった。 (浅見 徹)

5月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 22(会員19)名 天気: 快晴

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ
トビ オオタカ ノスリ コゲラ ハシボソガラ
ス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツ
バメ ヒヨドリ ウグイス メジロ セッカ ム
クドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホ
オジロ (23種) (番外: ガビチョウ) 踏切を渡り
土手に上がる。風も少なく穏やかな日だ。遠くで
はキジ、近くではシジュウカラやスズメの鳴き声
がする。ゴルフ場脇の道から荒川の河原に出ると
水辺にカルガモが2羽。上空では猛禽がカラスに
追われていた。野鳥の森では、茂みの間を飛び交
う鳥影が見られた。全体として5月としてはまあ
まああ鳥数だった。 (茂木幸蔵)

5月18日(土) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地 Young

参加: 41(会員25)名 天気: 晴

コジュケイ キジ カルガモ カイツブリ キジ
バト カワウ アオサギ ダイサギ ケリ コア
ジサシ トビ カワセミ コゲラ モズ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバ
リ ツバメ ヒヨドリ ウグイス オオセッカ
オオヨシキリ コヨシキリ セッカ ムクドリ
スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ
(30種) 初夏を思わせる陽気。集合場所すぐ脇
で元気に鳴くオオヨシキリ、ホオジロからはじま
り、谷中湖では10数羽のコアジサシが飛ぶところ
を見られた。広大なヨシ原では至る所でオオヨシ
キリが元気に囀っていた。その先のエリアでは飛
び回るオオセッカ・コヨシキリ・セッカを見られ
た。例年と比べるとコヨシキリが少なめ? カッコ
ウの声はまだ聴くことができなかった。 (廣田純平)

5月18日(土) 加須市 加須はなさき公園

参加: 21(会員19)名 天気: 晴

キジ カルガモ キジバト カワウ ゴイサギ
アオサギ ダイサギ ツミ オオタカ コゲラ
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジ
ュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ メジロ
オオヨシキリ ムクドリ スズメ ハクセキレイ
セグロセキレイ カワラヒワ (24種) (番外: ドバ
ト) オープニングの前、チョウゲンボウが飛ん
で、期待が高まる。始めてすぐ、今回の目玉、ム
クドリが盛んに飛び交い、皆で観察。キジバトや
カワラヒワ、シジュウカラの囀りが心地良い。オ
オタカが園路上空を飛び、キジやツミの声が鋭く
響く。ヨシ原のオオヨシキリを堪能して探鳥会を
終えた。 (長嶋宏之)

5月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 6名

相原修一、海老原教子、海老原美夫、志村佐治、
藤掛保司、三ツ矢正安

5月18~19日(土~日) 秩父市 中津川

参加: 38(会員38)名 天気: 18=曇、19=晴

ヤマドリ アオバト カワウ アオサギ ジュウ
イチ ツツドリ ヨタカ トビ サシバ クマタ
カ コゲラ アオゲラ カケス ハシブトガラス
コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ イワ
ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ センダイ
ムシクイ メジロ ミソサザイ カワガラス ア
カハラ キビタキ オオルリ キセキレイ ホオ
ジロ (31種) 初日、宿のこまどり荘周辺では、
たくさんのキセキレイがさえざり、飛び回ってい
る。大若沢のルートを往復。溪流ではカワガラス
の姿を全員で確認、ジュウイチの声も。オオルリ
は各所でさえざり、姿も見られた。上空を飛翔す
るクマタカの姿に歓声上がる。勘兵衛の滝近く
ではミソサザイが競い合ってさえざり。帰途には
カモシカと鉢合わせし、近くでゆっくり写真撮影。
夕食後は村上将之リーダーによる星の観察会。あ
いにくの曇り空だったので、勉強会に切り替えて
実施。夜間にはヨタカの声も聞くことができた。
翌朝は4時半から鳥見。オオルリやヒガラの声の
シャワーを浴びながら中津川林道を往復する。早
朝だと声のボリュームが違う。秩父最深部での密
度の濃い鳥見の2日間であった。 (長野誠治)



●見沼代用水世界かんがい遺産登録

9月5日付け読売新聞埼玉県版によれば、見沼代用水が国際かんがい排水委員会(ICID、本部・インド)が定める「世界かんがい施設遺産」に選ばれたと、県により発表されたとのこと。

見沼代用水は当会が年間20回以上探鳥会を開催する見沼田んぼの東縁と西縁を流れるなじみ深いもので、利根川中流域から県東部の15市2町を流れ、約1万haの農地に水を供給し、貴重な自然を支えています。



代用水東縁(右側)に添って歩くゴミ拾い探鳥会 (本年3月9日、編集部撮影)

●第29回鳥学講座開催のお知らせ

(公財)山階鳥類研究所と我孫子市鳥の博物館は、「ジャパン・バード・フェスティバル2019」にあわせ、第29回鳥学講座「島の鳥類学—南西諸島の鳥をめぐる自然史—」を開催します。

日時:2019年11月2日(土)13時30分~15時30分(開場13時00分)

場所:アビスタ(我孫子市生涯学習センター)1Fホール(定員:120名)

交通:JR常磐線我孫子駅南口から「アビス

タ・市役所経由」のバスでアビスタ前下車すぐ。

参加費:無料(事前申込み不要。先着順)
主催・問い合わせ:我孫子市鳥の博物館(電話04-7185-2212)、(公財)山階鳥類研究所(広報担当電話04-7182-1101)

●会員数は

9月2日現在1,587人です。

活動と予定

●8月の活動

8月10日(土)9月号校正(海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之)。

8月17日(土)pdf化した9月号を本部総務室に送信して全国配布を依頼した(海老原美夫)。

8月18日(日)役員会(司会:榎本秀和、行事予定の一部変更・関東ブロック協議会参加者など)。

8月19日(月)『野鳥』誌と同封発送しない会員向け『しらこぼと』9月号を郵便局から発送した(海老原美夫、山部直喜)。

●10月の予定

10月5日(土)編集部会、普及部会(午後4時から)。

10月12日(土)11月号校正(午後4時から)。

10月19日(土)袋づめの会(午後3時から)。

10月20日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

この夏の一番の思い出は、北海道旭岳で見たギンザンマンソ。コースを1周しても見られず、諦め切れなくてショートコースを回ってみることにした。その途中、真っ赤な雄が突然現れた。人を気にする風でもなく、ハイマツの花を食べている姿を間近でじっくり見せてくれた。念願がまた1つ成就。(森本)

しらこぼと 2019年10月号(第427号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 山部直喜 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
郵便振替 00190-3-121130 URL http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
(公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社